

ブルカージャパン第38回 NMR ユーザーズミーティング参加報告

共通機器部門 共通利用機器管理班 柿村 順一

1. はじめに（目的等）

核磁気共鳴分光法（以後 NMR と略す）に関する基礎的および最新の情報を習得し、今後の教育・研究支援のための知識・技術を向上させることを目的として参加した。

2. 期間・場所

期間：令和3年10月6日

場所：オンライン（ON24）

3. 参加者等

大学，研究所，企業等にて NMR 分析および運營業務にかかわる技術者および研究者 約 300名

4. 研修内容

招待講演 溶液 NMR の活用事例の紹介；太田陽介（株式会社 UBE 科学分析センター）

材料開発のための固体 NMR 応用事例：大橋竜太郎（三井金属鉱業株式会社）

北海道大学での高磁場 NMR 紹介～生体 NMR の共用事業を中心に～：相沢智康（北海道大学）

メーカー講演 最新の製品情報

Mdrive & Mdrive qNMR

固体 NMR のこれ，ご存じでした？

オートメーション化を目指す固体 NMR

リモートワーク時代の機器管理

TopShim バージョン 2

TopSpin 情報と最近の動向

5. まとめと感想

昨年に引き続きオンラインでの開催となったが，今回は招待講演の演題数が平時より増加されていた。特に，他の総合大学における機器供用の体制，設備のみならず技術の共用への広がりについて，一部分ではあるが知ることができ，非常に興味深い内容であった。

メーカー講演では，最新バージョンでの機能向上や新機能について聴講した。機器共用担当となっている東広島キャンパスの NMR については，年度内での更新が予定されている。また，霞キャンパスに新たに設置された NMR も，旧機種と比較してソフトウェアが大幅にバージョンアップされているため，実務に直結する非常に有益な情報を得ることができた。今後の支援業務に役立てたい。